



「還相回向（げんそうえこう）」を知っていますか？

下にご紹介する二つの文章は、50代で夫を亡くされた女性の随想です。この方のお母様が真光寺の門徒さんだったため、文章を見せていただく機会に恵まれました。

「夫の配慮」



破れた障子の穴を見ていると、心まで冷え冷えとります。
今朝は気合を入れて、食事の後片付けを済ませ、障子の張り替えにかかりました。

夫は亡くなる前年より何を思ったのか、私に何でもするように仕向けた。
障子の張り替え、電球の取り替え、電池の入れ替え、アイロンの修理、自分は手出しあらないで横で見ていた。
自分が亡き後、私が困らないように配慮していたとしたら、
今日あることを見越して、
私が自立させようとしたのか。
おかげで何でもできるようになった。
あなた、ありがとうございます。
清々しい春の光が、
真白の障子に映えます。
あなた、ありがとうございます。

「ひと日のつどい」



公民館で一人暮らしの人を対象にした「ひと日のつどい」があった。
八十余人の参加があり、社協民生委員福祉委員がお手伝いをして楽しい半日だった。

一月に急逝した夫も昨年までは、ハーモニカを吹いて共演していた。
仲間たちは今年も出演している。
私は夫の写真を手に闇のほうで聴いた。
いよいよ出発だ。

なんと夫のために、
主のいないマイクスタンドが一本立ててあった。
二十曲余りの演奏中、私は涙があふれ皆さんのご好意が嬉しかった。
夫も一緒に演奏しているのだといつ確信がもてた。



短い文章の中から、亡くなられたご主人と今も語り合い、愛情に包まれながら人生を送られている姿が伝わってきます。

浄土真宗には「還相回向（げんそうえこう）」という言葉があります。
<亡くなられた方は、浄土で成仏された後、再びこの世に戻り、苦しみに満ちた人生を送る私たちを救うために働きかけて下さる>という意味で使われます。そう考えると、日常の小さな出来事にも、その一つ一つに「還相回向」が隠されていませんか？